

中国新聞「子どもたちへ本の招待状」に掲載された本の紹介
 (こども図書館職員が2020年5月17日～2021年3月28日に中国新聞「子どもたちへ本の招待状」で紹介した小学校中学年以上向けの本をまとめました。)



掲載日	掲載図書	紹介文
2020年 5月24日	先生、しゅくだいわずれました 山本 悦子 作 佐藤 真紀子 絵 (童心社)	宿題を忘れたゆずけは、苦しまぎれのウソをつきますが、先生は「ウソつくなら、すぐばれるよな」のじゃなくて、聞いた相手が楽しくなるよな「のじゃなくちゃ」と言います。それって、上手にウソがつけられたら宿題やってもくもくしかならないってこと？ 次の日からクラス中が「先生、宿題忘れました」とユニークな言い訳を考えてきて……。
	ねこさんかぞくのみどりのカーテン 津田 直美 作 (ブロンズ新社)	緑のカーテンは、アサガオやゴーヤーなどを窓際で育て、暑い夏に太陽の光をさえぎり、涼しく過ごすための生活の知恵です。この本では、ねこの家族が緑のカーテン作りに挑戦する様子が温かみのある絵とともに紹介されています。具体的な手順や道具などが詳しくわかるので、夏に向けて緑のカーテン作りを始めたい人にぴったりです。
2020年 6月28日	しずくの首飾り ジョン・エイケン 作 ヤン・ヒアンコフスキー 絵 猪熊 葉子 訳 (岩波書店)	ある嵐の夜、ジョーンズさんは木にはさまった北風を助けます。北風はお礼に雨つぶが三つ付いた首飾りをジョーンズさんの娘に贈り、首にかけて決してはずさないようにと言います。首飾りをした娘は雨でもぬれなかったり、雨をとめたりできるようになりますが、ある時、首飾りをなくしてしまいます。この他に七つのファンタジーを収めた短編集です。
	かえるくんどっちがどっち? 松橋 利光 著 (アリス館)	見た目がそっくりなトノサマガエルとトウキョウダルマガエルも比べてみると違いがいっぱい。似ているカエルの前や後ろ、横などさまざまな角度から撮った写真を並べて、体の形や模様、住んでいる場所の違いを紹介しています。カエル当てクイズやカエルの持ち方、いろいろなカエルの鳴く時期と鳴き声に分かる「カエルの1年」も載っています。
2020年 8月2日	あららのはたけ 村中 季衣 作 石川 えりこ 絵 (偕成社)	えりは小学4年生の女の子。横浜から山口に引っ越したのをきっかけに、横浜にいる親友エミとの手紙のやりとりがはじまりました。えりはじいちゃんから自分だけの畑をもらい、植物やカエルや虫たちに触れ、それぞれの世界があることを知りエミに手紙で伝えます。一方エミは、えりも心配していた友達のかんちゃんに会うことをしようと思いついて……。
	ウミガメのものがたり 鈴木 まもる 作・絵 (童心社)	誰もいない夏の夜の砂浜で、ウミガメのおかあさんはたまごを産みます。深さ50センチくらいの穴の中に、100個くらいのたまごを産み、砂をかけて海にかえっていきます。生まれたばかりの子ガメは5センチくらいしかありませんが、鈴るの方を目指して進みます。そこには海が広がっているからです。陸でも海でもいくつもの敵があらわれ旅は続きます……。
2020年 9月6日	月へ行きたい 松岡 徹 文・絵 (福音館書店)	遠い月までどうやったら行けるでしょうか？ 風船を持って空を飛んで？ 飛行機に乗って？ 今、人が月へ行くための唯一の方法はロケットです。その構造や月へ到着するまでの道のりをイラストとともに詳しく伝えます。また、宇宙エレベーターやリニアモーターカーなど現在研究されている方法も紹介。宇宙への夢が広がる科学絵本。
	さかさ町 フランク・エマーソン・アンドリュース 作 ルイス・スロポドキン 絵 小宮 由 訳 (岩波書店)	リッキーとアンは汽車でおじいちゃんの家に向かう途中、線路の事故のため「さかさ町」で過ごすことになりました。この町では、車は後ろを前にして走っています。地下に向かって建物や建物が建っていたり、休日しか学校へ行かなかったり、全てが「さかさま」。でもそれぞれにちゃんと理由があって、2人は次第にこの町が好きになります。
2020年 10月18日	干したから… 森枝 卓士 写真・文 (フレーベル館)	野菜や果物、魚などを干した物は、世界中にたくさんあります。なぜ食べものを干すのでしょうか？ いろいろな国の「干したもの」の写真とともに、干すことによる食べものの変化を紹介。身近にある食べ物が、工夫の積み重ねによって作られていることに気付かせてくれる科学絵本。自分で食べ物を干す方法も載っています。
	まいごのまいごのアルフィーくん ジル・マーフィ 著 松川 真弓 訳 (評論社)	子犬のアルフィーは、家の人たちが出掛けるので、よその家へ一晩だけ預けられました。ところが預け先から逃げ出して、森の中で迷子になってしまいます。森で出会ったキツネの夫婦に助けをもらいながら家に帰ろうとしますが、アルフィーを必死で探す家族たちとはすれ違いが続き……。ある秋の日から始まる、アルフィーの冒険物語。
2020年 11月22日	うちは精肉店 本橋 成 写真と文 (農山漁村文化協会)	屠畜の仕事を知っていますか？ 精肉店を代々営んでいる北出さん兄弟は、市場で仕入れた子牛を肉牛に育て、屠畜して売るまでを自分たちの手で行っています。北出さん家族が1頭の牛を解体していく過程や、牛の皮を太鼓に利用する様子を写真で紹介。仕事に真摯に向き合う家族の姿と、生き物の命の重みが伝わる一冊です。
	つるばら村のパン屋さん 茂市 久美子 作 中村 悦子 絵 (講談社)	「三日月屋」はくるみさんが開いた、つるばら村でただ一つの宅配専門のパン屋。注文が来なくなりしょんぼりするくるみさんの元へ、動物や妖精から不思議な注文が入るようになります。タンポポのはちみつを使ったパンやドングリのパンなど、魅力的なパンとの出会いにヒントを得て仕事に励む、くるみさんの1年間を描いた物語。
2021年 1月17日	大根はエライ 久住 言之 文・絵 福音館書店	大根はエライ。大根おろし、おでん、ブリ大根にふるふき大根、お刺身のツマに漬け物にと大活躍。栄養もあって人気、実力ともにナンバーワンの野菜なのに、なぜかそう見えません。薬味として料理を引き立てたり、一緒に煮る物の味をしみこませておいしくなったりと、自己主張しないからかな？ そんな謙虚な大根の魅力を分かりやすく教えてください。
	学校ウサギをつかまえる 岡田 淳 さく・え (偕成社)	1月のある晴れた日、4年生のぼくはクラスメイトと下校途中、学校のウサギが飼育小屋から逃げ出したことを見ます。飼育当番で転校生の美佐子が困っているのを見て、みんなで協力してウサギを捕まえることに。工事現場のプレハブ小屋の下に潜り込んだウサギを何とかおびきよせようと思いますが、だんだん辺りは暗くなってきて……。
2021年 2月21日	富士山にのぼる 石川 直樹 著 (アリス館)	冬のある日、富士山に登り始めた著者。頂上を目指し、氷と雪と激しい風の世界を一步步つ前へ進んでいきます。麓に広がる豊かな森、誰の足跡もない雪原、山頂からの景色などを撮影した写真が美しく、登山中の食事や装備の紹介も楽しい写真絵本。七大陸の最高峰までの登頂を達成した写真家が、日本一高い山の姿を伝えます。
	クマと仙人 ジョン・コーマン 作 渡辺 茂男・渡辺 鉄太 訳 ケンティン・ブレイク 絵 (のら書店)	森の仙人は、長い人生で学んだ知識を伝えるため、15年前から生徒募集の看板を出して頭のよい生徒を待っていました。そこへ、不器用なクマが通り掛かり、生徒になることに。舟こぎや料理など、さまざまな科目の授業が行われますが……。失敗ばかりしてしまうクマと、辛抱強く教える仙人のやりとりをユーモアたっぷりに描いた物語。
2021年 3月28日	妖怪一家の温泉ツアー 富安 陽子 作 山村 浩二 絵 (理論社)	九十九さん一家は、化野原に古くから住む7人の妖怪たちです。原っぱに新しくできた団地の地下で、正体を隠して暮らしています。ある春の日、見越し入道のおじいちゃん、やまんばのおばあちゃん、老人会の温泉ツアーに行くことになりました。残された家族は、2人が人間を驚かせてしまうのではと心配でたまりません。
	小さいおぼけ オトフリート・フロイスラー 作 フランク・ヨーゼフ・トリップ 絵 はたさわ ゆうこ 訳 (徳間書店)	古いお城に、小さな白いおぼけが住んでいました。真夜中の12時になると起き出して、辺りを飛び回るのが大好きです。ところがある日、目を覚ますと、なぜかお城の12時でした。屋の世界が見たかったおぼけは喜びますが、太陽の光をあびたたん、体は真っ黒に。おまけに人間に見つかり、大騒ぎになってしまいます。